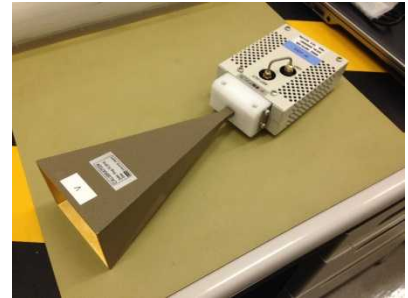
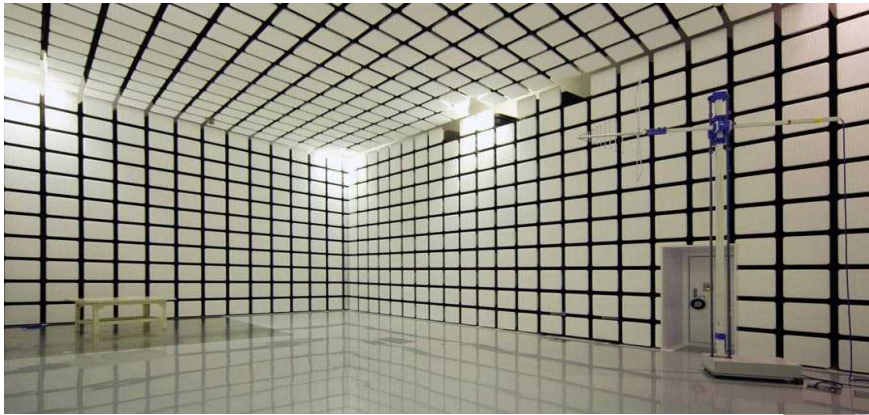
電気通信大学におけるインターンシップの事例

●授業科目名：インターンシップ（2単位）
●実習先企業：テユフ ラインランド ジャパン株式会社（第三者検査機関）
（本社：ドイツ　ケルン　1872年設立）
●実習場所：神奈川県横浜市
●参加対象者：大学院情報理工学研究科　総合情報学専攻１年
●実習期間：8月～9月 ●実習日数：20日間

＜取組の概要・志望動機＞
安全試験や認証に興味があり、大学で学んだ知識を実践に活かす経験がしたいこと、働くにあたり自分に不足している能力や知識を気づくきっかけにしたいこと、さらにグローバルな視点を身につけたいとの志望を抱いた。テユフラインランドジャパンのインターンシップは「体験」で終わらせず、「経験」となる学びの場が提供され、さらに外国人社員・海外からのインターンシップ生との国際的な職場体験を経験できることで学生自身の希望と企業の方針が一致し有意義な体験をすることができると考え研修した。大学では経験できない企業現場の実体験、取組を通じて企業とは何かを学んだ。

上左：EMCラボラトリー
（電波暗室）
上右：EMC試験治具
下左：同社全景
下右：ガールズデー

＜取組の具体的な内容＞
◆インターンシップスケジュール
□研修テーマ　電波暗室における製品等の電磁的合性（EMC）試験補助
□初日　オリエンテーション、集合研修、会社案内
□2日目以降　実習中のスケジュールについて配属先（テクノロジーセンター　EMCラボラトリー）での試験スケジュールに沿って、試験機器の校正、試験手順の改善・作成、エンジニアのサポート業務、インターンシップ独自のプロジェクトの遂行などを行った
□特別研修（1日間）　同社主催の夏休みガールズデー(注）に参加、女子小学生の研修を指導
□終盤　同社社長とインターンシップ生の交流会
□最終日　最終成果発表会プレゼンテーション

＜インターンシップで学んだこと＞
□製品の品質について新しい視点、製品試験の知識を得た。また自分の基礎知識の不足、英会話力の不足、積極性の不足を痛感した。毎日学べることがあり20日間の研修はあっと言う間に過ぎた

（注）夏休みガールズデー　：　ドイツ政府がはじめた女子の技術進路への推進キャンペーンで、同社が地元女子小学5-6年生を招待し、同社の施設、設備などを見学してセーフティーエンジニアを体験する場を提供するイベント

亜細亜大学におけるインターンシップの事例

●授業科目名：キャリア・インターンシップ（2単位）
●実習先企業等：（株）関東東急イン
●実 習 場 所：東京都内
●参加対象者：全学部2年生（国際関係学部のみ2.3年）
●実 習 期 間：8月～9月　　　　●実 習 日 数：10日

＜取組の概要＞

この授業は、企業・団体での就業体験を通じ、授業での学びとそれに関連する実務を経験することで学習効果を高めること、就職活動の一環として自らのキャリアを考える一つの手がかりとなること、さらに、社会人として必要な基礎的な人間力を養うことへの気づきの機会とすることを目標とする。

実習先での研修

成果報告会

＜取組の具体的な内容＞

事前研修として、インターンシップの概要に関する講義に加え、企業・団体に関する情報収集、自己分析、履歴書作成、ビジネスマナー研修等を実施する。夏期休暇期間中に、企業・団体で実習を行う。事後研修として、実習の振り返りや成果報告会での発表を行う。企業・団体での実習例は以下のとおり。

（ホテルでの実習）

派遣された学生は、ホテル業に関する講義を受けることはもとより、ベッドメイク、清掃作業、フロントデスク補助、など、ホテルの現場で多彩な業務を幅広く経験する。社員から適切な指示や指導を受けながら、基本的に社員と同じ作業を体験することで、ホテルの業務に対する理解を深め、就業意識の向上を図る。また、サービス業の中でも特にホテル業においては、ホスピタリティマインドが重要であることから、接客の仕方や顧客対応の方法等についても徹底的に指導を受ける。

山梨英和大学におけるインターンシップの事例

●授業科目名：インターンシップ（２単位）
●実習先企業等：山梨県庁他（計25社）
●実 習 場 所：コラニー文化ホール
●参加対象者：２・３年生
●実 習 期 間：８月～９月　　　●実 習 日 数：7日

＜取組の概要＞

本学の存する山梨県の産業は、第３次産業が全体企業の66％を占め、中でもサービス業が大きな割合を占めている。この地域特性を十分に把握し、**学生が自ら考え行動し、地域に貢献できるようプログラム**を構築し、産業界からのニーズに対応した人材育成の強化を図る。

実習風景

＜取組の具体的な内容＞

事前学習：4日間　今年度は事前学習で課題にグループで取り組んだ。

・インターンシップ期間だけではなく、その先にも転用可能な、長期を見据えたプログラム。
・２年生と3年生、どちらにとっても有用なものとする。
　２年生…職業世界を知る第一歩　／　３年生…就職活動を見据えたキャリア探索
・楽しいと感じながらも負荷のかかる、ストレッチ感のある課題を課す。
・活動全体を通じて、社会人意識を高める（特に時間意識、納期）。
・インターンシップでの学びを今後の学生生活にどう活かすかを意識させる（目的意識）。

実習：7日間

【1日目】座学・ホール運営全般について、【2日目】事業企画について・アートマネージメントについて、【3～6日目】講演制作補助、【7日目】企画書作成、【8日目】プレゼンテーション

事後学習：1日間

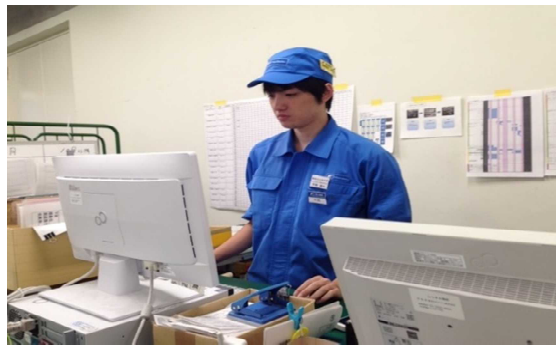
「学んだことを自分の中に意味づけるプロセス」と位置づけ、実施。目的は「成長の実感、経験や学びを、今後に向けてどう生かすか整理する」、「他者の体験や考えを聴くことにより、学びを深める」の2つ。振り返りの後にはインターンシップでの成果をひとりずつプレゼンテーション。

YAMANASHI EIWA COLLEGE

神奈川工科大学におけるインターンシップの事例

●授業科目名：インターンシップ（２単位）
●実習先企業等：富士電機株式会社
●実 習 場 所：東京工場　東京都日野市
●参加対象者：３年、全学部全学科
●実 習 期 間：８月～９月　　　●実 習 日 数：１０日間

＜取組の概要＞
事前学習として、マナー講座を含め、履歴書作成方法等を学び、業界研究を行い、インターンシップ先で実習（スキャナーを利用したデータベースの作成）し、事後学習として報告書にまとめ成果発表会で発表する。

実習先でのデータベースの作成作業

実習先での情報の変更作業

＜取組の具体的な内容＞

第 1 日：オリエンテーション、今までの人生の振り返りと現実の整理
第2~4日：Wordを使用しての取扱説明書の作成
第 5 日：Wordを使用しての取扱説明書の作成、工場見学
第 6 日：スキャナを利用したデータベースの作成、会議見学
第 7 日：スキャナを利用したデータベースの作成、製造課での作業体験
第 8 日：製造課での作業体験
第 9 日：スキャナを利用したデータベースの作成、Excelを使用しての表の作成
第 10 日：『コスト発生の仕組み』についての講義、前日までに残った作業

後日、報告書を作成し、提出。また、成果発表会のため、発表資料を作成、発表練習をして、インターンシップ成果発表会で発表する。

創価大学におけるインターンシップの事例

●授業科目名：インターンシップⅢ（２単位）
●実習先企業等：南三陸ホテル観洋
●実 習 場 所：宮城県南三陸町
●参加対象者：全学年
●実 習 期 間：８月／２月　　　●実 習 日 数：１４日

＜取組の概要＞

大学と旅行社とホテルが連携をして、夏期及び春期休業期間に、震災の被災地のホテルで実施。ホテル業務全般の経験を通じて、社会人基礎的な力と就業力の向上を図る取組みを行っている。

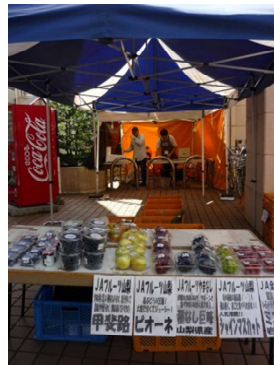
＜取組の具体的な内容＞

（１）事前研修にて、働くことの意義を学ぶ。
（２）事前研修にて、チームを作り、課題解決力を養う。
（３）午前の業務では、フロント業務・客室清掃などを経験する。
（４）午後の業務では、レストラン業務・布団敷きなどを経験する。
（５）午後の空き時間を利用して、現地で事業を行っている方とのワークショップを行い、復興支援に関する考え方も学ぶ。
（６）対人基礎力・課題解決力・目標達成力などの向上を目指す。
（７）事前・事後において、就業力テストを行い、参加者の成長を確認するとともに、今後の取組みの質向上につなげる。
（８）事後においては、各チームが、この取組みで学んだことと、これから自身が挑戦することをまとめたプレゼンテーションを行う報告会を実施し、修了証も授与する。

東京経済大学におけるインターンシップの事例

●授業科目名：地域インターンシップ（２単位）
●実習先企業等：東京むさし農業協同組合　国分寺支店
●実 習 場 所：東京都国分寺市
●参加対象者：全学部２年次以上
●実 習 期 間：８月～９月　　　●実 習 日 数：１０日

＜取組の概要＞

２００４年より「東京経済大学・国分寺地域連携推進協議会」が発足し、地域連携事業の一環として「地域インターンシップ」を実施している。学生の就業体験に加え、地域の活性化も目的としている。

＜取組の具体的な内容＞

2014年度の実習では、農業協同組合の事業のうち、金融共済、資産管理、指導経済の３事業で実習を行った。農業体験２日間と、各部署における実習８日間を行った。

●農業体験　ナスの棚づくり、袋詰め等の作業を行う。都市農家の実際を体験し、JA、農家、消費者の関係を学ぶ。

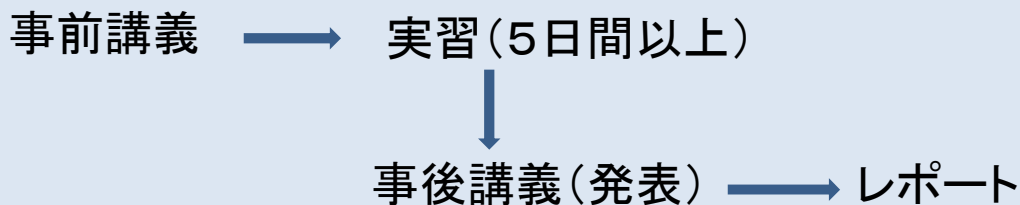
●金融共済事業　渉外担当職員に同行、共済関係書類の整理、データ入力などを行うことで、丁寧で正確な仕事の必要性や信頼構築の難しさを学ぶ。

●資産管理事業　遺言信託や土地売買に関する業務等に携わり、法務局への同行、長期滞納者への対応なども経験する。

●指導経済事業　JAが農家に対し行う農業支援を体験。農業大学の見学、ファーマーズマートでの販売、農家での作業などを体験。

北里大学におけるインターンシップの事例

●授業科目名：インターンシップ（1単位）
●実習先企業等：独立行政法人水産総合研究センター
中央水産研究所
●実 習 場 所：神奈川県横浜市金沢区
●参加対象者：海洋生命科学部学部2年生
●実 習 期 間：夏休み期間、春休み期間
●実 習 日 数：5日間

＜取組の概要＞
事前講義でインターンシップの意義を確認し、インターンシップに参加するための手順や方法を知る。5日間以上のインターンシッププログラムを受けたのち事後講義において職業観についてどう変化したか、視野がどのように広がったかなどを発表。発表やプレゼンに関して感じたことも含めてレポートを提出することで単位認定とする。

＜取組の具体的な内容＞
独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所において実際に行われている研究調査活動を体験。研究活動の地道な活動や忍耐強さが求められる現場を知ることで、職業についての普遍的な価値や意味を確認する場となっている。研究職に関して、実際の職場を体験することで今後の学生生活への弾みをつけるとともに現実を直視して、今何をする必要があるかを感じ取ることにもつながっている。